

人生、ただいま修行中

監督：ニコラ・フィビリエール

配給：ロングライド

<https://longride.jp/lineup/tadaima/>



あらためて照らされる、看護を学ぶ人々の姿

フランス、パリ近郊の看護専門学校を舞台に、学生たちの成長を描いたノンフィクション映画「人生、ただいま修行中」が11月1日より全国で公開されます。

本作の監督ニコラ・フィビリエールは過剰な演出を好まない、撮影対象と「正しい距離」をとると評される映画監督です。本作は、講義、演習、実習の3章仕立てとなっており、ナレーションや音楽は用いず、実際の学習場面を淡々と描いています。そこでは、フランスの看護学生たちの豊かな語りと、表情も含めた身体の動きがくっきりと、自然に映し出されています。

看護学校での学びということもあり、小誌の読者の方々は、日本の看護教育の「同じところ」と「違うところ」に注目されると思います。

看護の基本となる患者との接し方にはじまり、ターミナルケアなどの講義、モデルを用いた筋肉注射や、学生同士での体位変換といった演習の様子。そして実習後の振り返りでは、学生が「自分は看護師に向いていない」と悩む姿や、目に涙を浮かべて看取りの経験を語る様子が映し出されます。そうした学生たちの真剣な眼差しとたくましく成長していく姿は、きっとみなさまにも馴染み深いものではないでしょうか。

一方、「違うところ」も目にとまるでしょう。学生の人種や年齢の多様性、尊厳死についての看護師のス

タンスや、ハラスメントへの対応などは、おそらく日本と違っているように思います。何より、実習中に学生が患者さんに行う技術の違いは、最大の見どころの1つといえるかもしれません。日本の看護教育について考えるうえでも、とてもおもしろい資料になるでしょう。

監督によると、本作は彼自身が救急救命室に運ばれ一命を取りとめたことをきっかけとして、企画し、生まれた作品だそうです。しかし、本作の主演は救急救命室で働く看護師ではなく、学校で学ぶ人々です。どうしてでしょうか。彼は、「学習の場を撮影することは、ものごとの基盤を映すということです」と語っています。この言葉は、「人々が看護師になっていく学校の場にこそ、看護の基盤がある」と言い換えることもできるでしょう。

教育をこのようにとらえ、人々が看護師になっていく姿への敬意をもって、制作された本作。非医療職のご家族や友人など、看護のことを知ってほしい相手とも、一緒にご覧になってみてはいかがでしょうか。

